

平成26年度岡山県立記録資料館運営協議会 議事録（概要）

1 日 時 平成26年11月26日（水） 13:30～15:20

2 場 所 岡山県立記録資料館 研修室

3 出席者

（委員） 奥田哲也、沢山美果子、清水玲子、妹尾壽子、中村誠（敬称略、50音順）
（事務局） 岡山県立記録資料館 定兼館長他

4 傍聴者 なし

5 議 題

- (1) 平成25年度事業報告について 資料:クリック（平成25年度記録資料館年報）
- (2) 平成26年度事業の現況等について 資料:クリック（平成26年度事業の現況等）
- (3) 平成27年度事業計画（案）
- (4) その他（将来について等）

6 議 事

委員長により議事進行

- (1) 「平成25年度事業報告」について、事務局から説明

（委員） 記録資料の写しを光ディスク（CD-R）によって1枚40円で交付することになったとの説明があったが、CD-Rにどれだけの情報量が入っていても1枚40円なのか。

（事務局） CD-R1枚に入る情報量ならば、1枚につき40円である。営利目的での利用の場合についてなど議論したが、とにかく利用をしてもらうことにより当館の存在を示すためにこのようにした。ただし、既にデジタル化した資料が対象であり、まだデジタル化していない資料については対象としていない。

（委員） 資料のデジタル化については、以前から手間が掛かっているのか。

（事務局） 当館の既存の予算の中では難しかったが、緊急雇用対策事業を活用することでコスト面の課題を解消できたので、館蔵のフィルムを相当数デジタル化することができた。

(委員) 資料のうち何割位デジタル化できたのか。

(事務局) 館蔵の資料のどこをとって何割かお答えするのは難しい。所蔵するマイクロフィルム800万コマのうち風景等の映像に限ると約40万コマのうち7割程度をデジタル化できた。デジタル化を進めている理由は、保管30年で劣化が顕著になるビネガーシンドロームによるフィルムの劣化対策として進めている。

(2) 「平成26年度事業の現況等」について、事務局から説明

(委員) 利用者推移の統計において、展示コーナー閲覧者数が平成25年度実績より減少している理由について、各種講座の会場が当館研修室からきらめきプラザの会議室に変更になったためと説明があった。会場が変更になったのは研修の参加人数が増えたからなのか。

(事務局) ご質問のとおり講座の参加人数が増えたため、当館研修室では手狭になったからである。当館研修室の定員は40人程度だが、受講者希望者が60名近くになることもあり定員60人のきらめきプラザの会議室を利用している。当館研修室を使用していた時には、講座の前後に展示コーナーを見ていただく機会も多かったが、別棟のきらめきプラザで開講しているため展示観覧の機会が減っている。対策として、講座終了後に職員による展示解説を行うなど工夫をしている。今後も努力してまいりたい。

また、展示コーナー閲覧者数が8月に落ち込んでいるのは、1講座のみ開講予定の講座が台風の影響で延期したためである。

(委員) 利用者推移の統計において、平成19～20年に大きく利用者数が増加しているがなぜか。

(事務局) ご指摘の2年間に利用者数が増えたのではなく、これ以降に減ったという見方が正しい。理由は、平成20年6月に発せられた財政危機宣言をうけて公の施設の見直しが行われた。これにより当館の職員数が縮減し、資料整理の数が落ちるなどの影響があった。このことで新規資料等の公開が減り利用者数の減少に繋がったと考えられる。

(委員) 古文書の収集に寄贈と購入の数があるが、この実績は、整理数に含まれるのか。

(事務局) 今後整理が終わり次第、整理数に組み入れられるが、この時点では含まれていない。収集したものはデータベース化してから整理の実績数に数えられるので、

収集から整理までにはタイムラグがある。本年度整理したものの中には、当館設立以前に県が取得した資料も含まれている。

(委員) 古文書の読解に関することで、市民グループの解読講座受講者が、そこでは読めない資料を教えてもらいに来館することもあると伺った。記録資料館が古文書読解のセンター的な役割をしているようなので、それぞれのグループと連携して、展示説明に誘導するなど色々な工夫が考えられるが、市民グループとの連携等は考えられないか。

(事務局) 市民グループの方には、市の講座を受講されている方もいるが、公民館の集まりで古文書を読むグループ活動をしている方なども含まれていて様々である。地元にくずし字を読める人がいないということなので、遠方から来館されて熱心勉強されている方もいる。また、そのようなグループ活動において指導者をされている方が勉強にこられることもある。来館される機会に、展示解説を行うなど工夫してまいりたい。

(委員) 一番多かった時期に比べると利用者数が若干減ってはいるが、活況を見せている部分もあり、定着してきているような印象を持った。各種講座は受講希望者が増えて外部の会議室を利用することで展示コーナーの統計実績が落ち込んでいるのはいたし方ないことと考える。ボランティアや同好会活動も定着し増えていて、館の運営も助けられていて良い傾向だと考えられる。

(委員) 前回、休館日を見直す議論があったがどうなったのか。

(事務局) その議論については、土日の利用者も一定数いるので、利用者の便を鑑みて、現行のまま月曜日を休館日で進めている。

(委員) アンケート集計を見ると、講演や講座の参加者に20代30代が見受けられるが学生なのか。また、ここから古文書解読講座専修コース、更に同好会へと繋がっているのか。

(事務局) 学生ではない。意欲のある若者だと認識している。また、これを機会に古文書解読講座専修コースに来る若者もいる。ただし、まだ同好会に所属している若者はいない。同好会は平日の木曜日を活動日としているため、若者の参加は難しいのが現状である。

(委員) アンケート集計で、講演及び講座を知ったきっかけでチラシが多いが、チラシは何部刷って、どこに配布しているのか。

(事務局) チラシは4,000部刷って、県内の公民館、図書館、大学等に送ってお

り、ホームページ上でも見られるようにしている。また、前回の運営協議会でご提案のあったポスターも500部作成して活用している。

(委員) 古文書等を読みたいという要求が高まっていることの背景についてどのようにとらえているのか。

(事務局) 利用目的の中で多いのは家系についてであり、自分の先祖について知りたいという欲求がある。もう一つは、社会教育や生涯学習の機会が多くある中で、博物館等に行って展示物などを読みたいという欲求が高まっている背景がある。また、テレビ番組の「なんでも鑑定団」の影響もあった。

(委員) 古文書が全く読めないで林原美術館の平家物語絵巻を見るのと、少し読める状態で見るとでは、全く感じ方が違う。

(委員) 今後、各種講座の受講希望者が増えた場合に、まだ定員の余裕はあるのか。

(事務局) 定員を超えた場合には抽選を行うこととしているが、現在は出来る限り希望者全員を受け入れられるようにしている。また、大幅に希望者が増えた場合でも、きらめきプラザには定員200人の会議室もあるので、受入可能だと考えている。

(委員) 講座の回数や規模が増えた場合には職員の負担が増えるのではないかと。ボランティア等の中で、知識が深い方に講師をお願いするなど、職員の負担軽減はできないか。また、その場合に講師料などを出すことは予算的に可能か。

(事務局) 過去にボランティアに講師をお願いしたことはある。また、講師料について支出することは可能である。

(3) 「平成27年度事業計画(案)」について事務局から説明

(委員) 展示は、写真及び映像資料が多く分かりやすい、今後も引続き歴史に詳しくない初心者にも分かり易い展示に努めてほしい。

(事務局) 今後とも分かり易い展示を心掛けてまいりたい。

(委員) 利用者及び教育関係の委員として岡山県小学校長会から参加しているのだが、教育現場との連携の観点から考えると高等学校関係から委員を出した方がよいのではないかと。

(事務局) 今後、検討してまいりたい。

(委員) 平成27年度は開館10周年だと伺ったが、予算的に特別な措置があるのか。

(事務局) 特別な措置はない。既存の予算のなかで工夫して事業を進めてまいりたい。

(委員) 平成27年度の事業について、久米南町、井原市、瀬戸内市等に協力お願いしていると伺った。各市町村から記録資料の提示を待ちながら協力を働き掛けていくという形になるのか。相手方からの提供待ちだと統一性が保たれないと思われるが。

(事務局) 基本的には当館の担当職員が、全体の構成を考える中で、提供されるものを組み込んでいく形になる。アーカイブズは光の部分だけでなく、影の部分も収集・保存しなければならないと考えている。今年度の話になるが、岡山県ハンセン病問題対策協議会が収集した資料を研究者用に公開のための準備をしている。

(委員) 歴史的な資料については展示や講演などで取り上げる機会が多いが、公文書については一般の関心が薄く取り上げる機会が少ないと感じる。先ほど説明のあったハンセン病関係資料の公開などは、公文書でありながら社会的関心の高い内容であるので良い事だと思う。この資料はハンセン病療養施設が出来て以降のものか。

(事務局) 施設設立以後の資料である。岡山県が「長島は語る」というハンセン病関係資料集を編集する際に収集した複写資料を健康推進課から移管を受けて所蔵しているものである。岡山県には江戸時代のハンセン病関係の資料はない。

(4) その他(将来について等)

(委員) 展示スペースのキャプションや資料の文字が小さくて読みづらいので、拡大鏡を設置したらどうか。

(事務局) 当館は文字資料が多いため、どうしても文字が小さくなってしまふのは致し方がない。今後、検討してまいりたい。

(委員) 書庫の狭隘化対策の説明で、資料の中には原本ではなくデータのみでも問題ないものがあり、デジタル化していくことでスペースを確保していきたいとあったが、再選別の基準を作りながら整理をしているのか。また、その基準はどのように決めているのか。

(事務局) 原本が必要なものとそうでないものがある。公文書の中で公印が押されたものは原本で保存する必要があるが、行政執行過程で作成した調査資料等はデータ

でよいと考えられるものもある。近年では電子データのための公文書もあり扱いに苦慮している。選別基準については館の中で話し合っていて決めている。

(委員) 県の博物館構想等、他の大規模施設構想が浮上すると、今後どうなるかで県立記録資料館の位置付けも流動的ということなのか。

(事務局) 現時点で今の形を変えるつもりはないが、今後、全体構想の中に組み入れられるのならば、それに従う。三重県の場合は博物館の中に公文書館が組み入れられている。岡山県は図書館に組み入れられることはなかったが、奈良県は図書情報館として図書館に組み入れられた。

(委員) 一つの施設が出来ると、その存在価値が問われ続けていく。先日、古代吉備文化財センターが設立30年を迎えた。これからの課題は、発掘行政など常に必要があるものは行っていくが、今後、発掘自体が減っていく中で存在意義を問われることになる。その時に一番必要なのが、県民がいかにその施設が大切だと考えてくれるかである。当館も公文書及び古文書を収集保管していく業務はあると思うが、今後、再編などで存在価値が問われる時に、県民に必要とされる施設であるかどうか重要だと思う。したがって、県民へのレファレンス機能、各種講座などのサービスが重要になってくる。ここを出来る限り強化していく必要がある。

(事務局) 心強くなる御意見をいただきました。今後とも、サービスの充実を図ってまいりたい。

(委員) 高校にある歴史研究会などとボランティアや同好会との連携を図ることもできるのではないかと。土曜日などに機会を設けて若い人たちが入ってきやすくするのはどうか。また、小学生を引き込むのはなかなか難しいと思うが、こどもの日に展示を全て子供向けにするなど大胆なイベントを考えてはどうか。

(事務局) 例えば他館では、昔の手紙の折り方などのワークショップをしているところがあった。来館されていない層を引き込むきっかけをつくるよう色々とためしてみたい。高校生はもちろん小学生、中学生を含めて、また歴史に詳しくない人にも魅力ある場所にするために工夫してまいりたい。

(委員) 以上で議事を終了する

以上